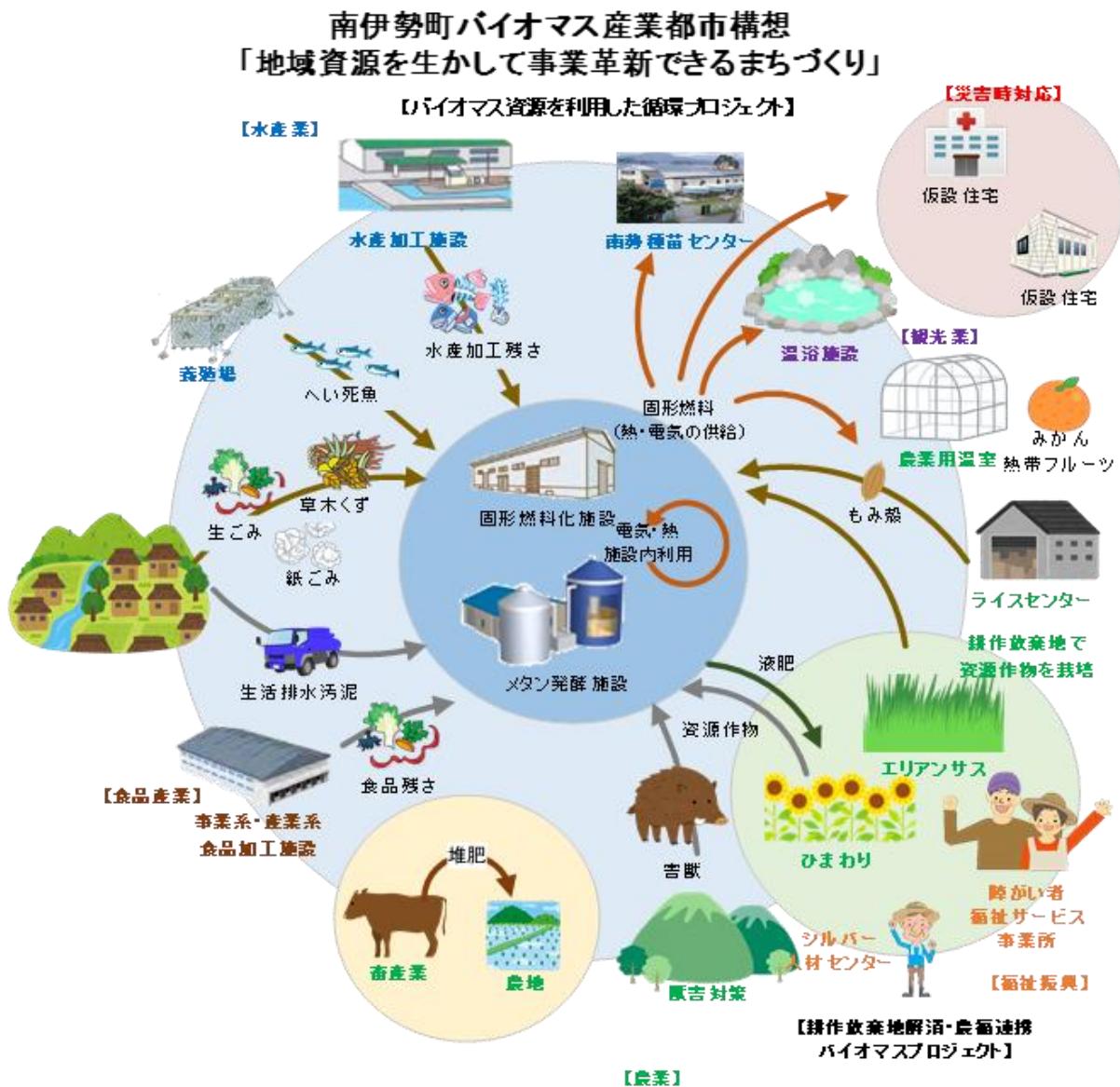


三重県南伊勢町

自治体名	南伊勢町
首長名	上村久仁
HP	https://www.town.minamiise.lg.jp/
バイオマス産業都市選定年度	2020 年度
バイオマス産業都市構想	https://www.town.minamiise.lg.jp/admin/shoshiki/machizukuri/4051.html
担当部署	まちづくり推進課
連絡先 TEL	0599-66-1366



I 事業化プロジェクト

【表 1：プロジェクト一覧表】

項目	名称	現状
プロジェクト 1	バイオマス資源を利用した循環プロジェクト	その他
プロジェクト 2	耕作放棄地解消・農福連携バイオマスプロジェクト	その他

バイオマス事業の進捗状況

事業化プロジェクト名	計画と の進捗 比較 ^{※1}	進捗状況（具体的な記述）
1.バイオマス資源を利用した循環プロジェクト	d	令和5年4月より食品廃棄物、紙ごみを含めた一般廃棄物は、鳥羽志勢広域連合やまだエコセンターにて処理されることになり、当初、バイオマス産業都市構想で想定していたバイオマス資源の確保とメタン発酵及び固形燃料化が実施困難なものとなった。
2.耕作放棄地解消・農福連携バイオマスプロジェクト	d	「バイオマス資源を利用した循環プロジェクト」の見直しが必要となってきたことに伴い、メタン発酵の資源として利用するひまわりやえごま、固形燃料化におけるエネルギー資源として利用するエリアンサスを栽培する「耕作放棄地解消・農福連携バイオマスプロジェクト」についても、再生可能エネルギー資源としての利活用が見通せないことから、計画の見直しが必要となった

a)計画以上に進捗している b)ほぼ計画通り c)計画より遅れている d)進んでいない

II 脱炭素化の取組状況や取組方針

II-1 地域における脱炭素に関する計画について

計画名称等	策定年度	策定予定の年度
地方公共団体実行計画（区域施策編）	—	2026年度
ゼロカーボンシティ宣言	2020年度 https://www.town.minamise.lg.jp/material/files/group/1/zerokarbon.pdf	—
ゼロカーボンパーク	2024年度 https://chubu.env.go.jp/press_00038.html	—

II-2 地域における脱炭素化に関する取組概要

① 自然環境の保全に配慮した 観光地づくりの推進

- ✓ 海藻を活用した二酸化炭素吸収固定化

② クレジット化の取組

- ✓ 海洋生態系を活用した「ブルーカーボン」による二酸化炭素吸収固定化事業(クレジット化)の実施

③ 無駄な燃料油脂を消費しない移動手段の確保。

- ✓ 国立公園及び居住区域における公共交通の利用促進、町営バス・デマンド交通による公共交通機関の充実

④ 自転車ラック・空気入れ完備 の設置による自転車移動の推進

- ✓ 公共施設への電気自動車急速充電設備の導入。

- ✓ 南伊勢町内全域の街路灯のLED照明化

- ✓ 「伊勢志摩国立公園エコツーリズム推進協議会」を中心にエコツアーを推進

- ✓ サイクリング用ポートの設置等

⑤ 環境問題への意識啓発

- ✓ 南伊勢町水産農林課(種苗センター)における小学校児童を対象とした海洋生物と海洋環境について学ぶ水産学級を実施

- ✓ 海岸漂着ごみをはじめとする環境問題をより多くのステークスホルダーと共有し、協働による「クリーン作戦」や「海ごみゼロ標語コンクール」を実施する等の参加型意識啓発活動を実施
- ✓ 町内イベントにおいて「ごみの出し方、分け方 P R 活動」や子供たちを対象とした「環境クイズ大会」を実施
- ✓ 星空観測会を通じ、光害や大気汚染等に気づき、環境保全の重要性について関心を深め、良好な大気環境や美しい星空を観光や教育などの地域資源として活用

⑥ プラスチックを減らす取組など、3 R環境学習を実施

- ✓ 鳥羽志勢広域連合やまだエコセンターにおいて、小学校児童を対象とした 3 R 環境学習の実施

⑦ 産官学連携による地域脱炭素の取組

- ✓ 海洋生態系を活用した「ブルーカーボン」による二酸化炭素吸収固定化事業の調査研究を実施

⑧ 低炭素、環境に配慮した交通網の利用促進

- ✓ 三重交通株式会社が運行する広域幹線バスが五ヶ所バスセンター、道方バスセンターに集積している利点を活かし、自主運行バス(町営バス、デマンドバス)やタクシーなどにより豊かな資源を生かした観光集客が交流を生み、地域が魅力的となるまちづくりを推進している。